

今月の PICK UP

『あなたの見ている世界を、私も見てみたい』 ジョディ・ロジャーズ／著

東洋館出版社 493.7円



本書は、自閉スペクトラム症の26人との対話をもとにした、多様な価値観に触れられる1冊です。著者は一人ひとりの個性に向き合い、その違いを「理解する」だけでなく「尊重する」ことの大切さを伝えています。「みんなのことを書いた本」という言葉が示すように、誰にとっても身近な問題として語りかけています。共感の力は驚くほど人と人とのつながりを強めること、さらに他者との違いを受け入れることが特別なことではなく、日常の中で大切にすべき姿勢だと気づかされます。改めて自分自身の在り方を見つめ直すきっかけになるのではないのでしょうか。



『うたたねの地図 百年の夏休み』 岡野 大嗣／著 実業之日本社 911.1円



本を読んでいて、実際には見たことがない光景なのに既視感や懐かしさを覚える、という体験をしたことはありませんか。本書は、短歌と短歌の「たね」、そしていくつかの場所にまつわる散文から、とある夏の街の、誰かの心象風景を描き出そうという1冊です。「うたたね」の隙間に浮かぶ夏の街をさまよううちに、あなたの記憶の中にあるいつかの夏も眼前に現れるかもしれません。

司書の
おすすめ

『Dr. モルック』 ハツ賀 秀一／著 心書院 782.5円

「モルック」というスポーツをご存知ですか。モルックはフィンランド発祥のスポーツです。わたしがSHIGA輝く国スポ障スポ2025ではデモンストレーションスポーツの一つとして実施され、守山市でも大会が開催されるようになりました。

モルックが日本に広まるきっかけをつくったのはある1人の小児科医でした。本書には、その小児科医がモルックと出会い、日本に普及させるまでの日々が綴られています。さあ、この夏、モルックを始めてみませんか。



『方向音痴って、なおるんですか?』 吉玉 ^{よしだま} サキ／著 交通新聞社 141.2円

北アルプスの山小屋で10年間働いた経験があり、山では迷ったことはないけれど下界では方向音痴、という著者。アプリや紙の地図を使って目的地を目指したり、認知科学者や地図研究家など専門家に話を聞いたり、方向音痴を克服すべくいろいろ実践します。果たして、著者は方向音痴を克服できたでしょうか？

結果はさておき、今回取り組んでみてよかったことがあった、と著者が言うように、方向音痴は決して悪いことばかりではないかもしれません。



『百葉帖』 雨宮 ゆか／著 雨宮 秀也／写真 エクスナレッジ 793円

私達の身の回りにある100種類の葉を生けてみたら、こんな1冊になりました。

葉の色も、器との組み合わせも、100通りのそれぞれ違う姿を見せてくれていて、それぞれの個性が感じられるたたくまいに驚き感心してしまいます。写真を見るだけでも、また、生け方を参考に実践してみるのも楽しそうです。

同じ著者による『百花帖』『百実帖』もあります。

